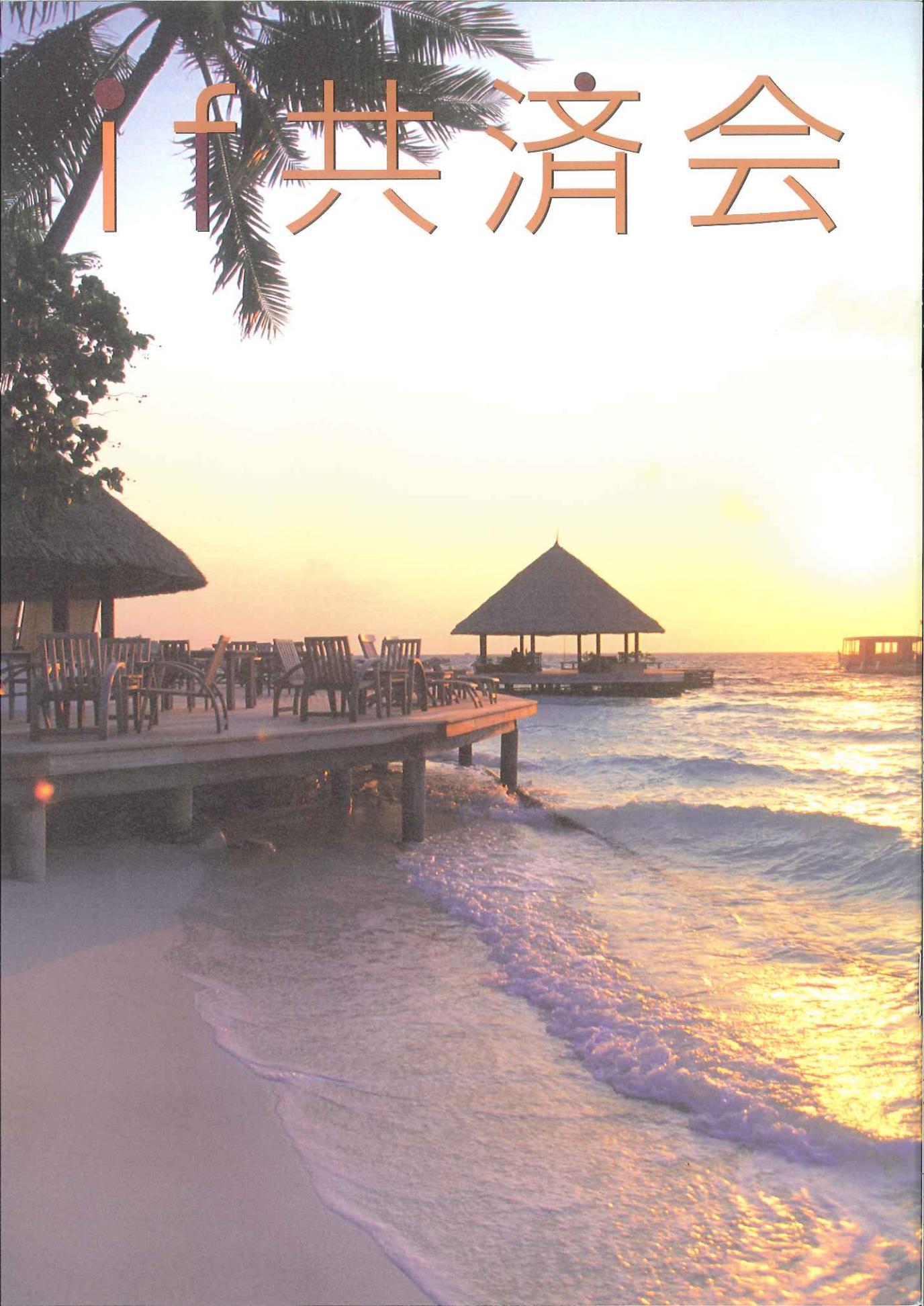


if 共濟會





優しさを求める、次の子間に託す想いをもつていてる。
でも、心のどこかに
眼はどんよりと曇り、焦点が合わない。
肌は萎み、軟らかさを失い、
触れると冷たくなっていた。
老いたと自覚したとき

自分を振り返るとよくわかる。
子どもだつた頃、けつして清らかなだけではなかつたことを。
そして後悔ということを覚えたことも。

小学生になると
子どもはいろいろなものを学ぶ。
勉強も、スポーツも。
そして、妬みも、嘘も、虐めも、自慢も…

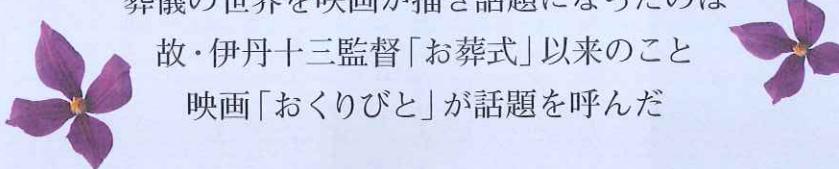
子どもの世界は大人の世界と交差を始める。

赤ちゃんの手は温かで、触るもののかを溶かす。
赤ちゃんの眼は何を見ているのだろう。
赤ちゃんの心はきっと汚れを知らないのだろう。

CONTENTS

詩	1
特集 いのちの羅針盤—死者への想い	2
1.「おくりびと」の世界	3
2.「このたびはご愁傷さまです」 —葬儀での挨拶	6
3. 悲しみに寄り添って—供養の再発見	10
お葬式Q&A	12
Q 法事はどうする?	13
Q 葬式での宗教者へのお礼は?	15
Q 葬儀の後での香典は?	17
if 介護くらぶ	19
風の音	24
if 共済会の会員特典	26
if 共済会 保険プラン	28
葬儀費用準備プランA型	30
葬儀費用準備プランB型	31
全葬連加盟組合一覧	32

葬儀の世界を映画が描き話題になったのは
故・伊丹十三監督「お葬式」以来のこと
映画「おくりびと」が話題を呼んだ



映画「おくりびと」

映画「おくりびと」(監督・滝田洋二郎、脚本・小山薰堂、出演・本木雅弘、広末涼子、山崎努、余貴美子、吉行和子、 笹野高史、音楽・久石譲)が好評です。
第32回モントリオール世界映画祭グランプリ受賞、第28回ルイ・ヴィトン・ハワイ国際映画祭で観客賞受賞と滑り出し上々のようです。
チエリストだった主人公(本木)が失業し故郷に戻り、葬儀社の下請で納棺業をしている小さな企業にひょんなことから入社し、人々、家族からの偏見の眼の中、死をみつめる仕事に生きがいと意味を感じていくという「納棺師」を描いた映画です。
直接的に葬儀の世界を描き、話題になった映画としては伊丹十三監督「お葬式」(1984年、伊丹監督としての第1作)に続くものでしょう。

昔の「湯灌」

昔は白宅で死亡する方が圧倒的に多かったので、死亡すると近所の人や親戚が集まって死後の処置をしました。それは「湯灌」と呼ばれ、死者の身体をお湯で洗い、その後に死装束に着替えさせ納棺をする、という一連の作業です。

湯灌する人には事前に酒や食事が振る舞われ、酔っ払って作業したケースも珍しいことではなく、遺体と戦

「納棺師」とは?
「納棺師」とは公認された名称ではなく、通称です。遺体に対して死後の処置を施し、死装束に着替えさせることを家族や親戚の前で死者の肌を見せることなく行い、納棺する専門技術をもつた人を言います。この映画では「納棺師」は専門技

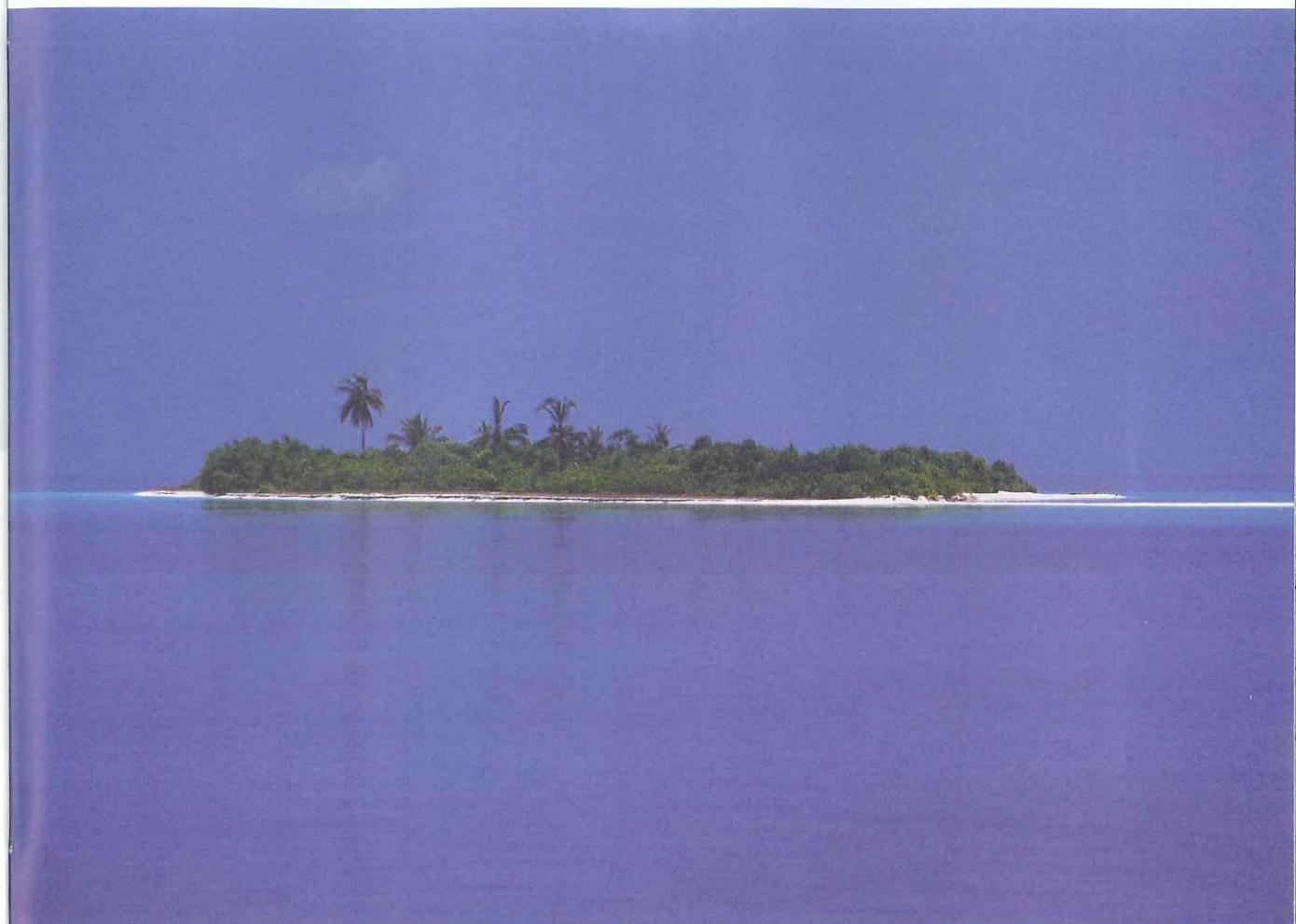
術者で、葬儀社の下請となっていましたが、専門家が独自に会社を作つてさまざまな葬儀社の依頼で遺族の家に行き納棺するというタイプもある例もあり、こちらのほうが多いでしょう。

苦闘した話も伝えられています。当初は座棺(イメージとしてはあぐらをかいて座った状態で棺に入れるもの、縦に長い)が多くたので、死後硬直を起こした後の遺体では棺に納めるのが大変な作業だったようですが、それでも素人の作業ですから、周りに觀いている人はヒヤヒヤ、遺体も転がされたりで、湯灌はけつして美しいものではなかったようです。

「おくりびと」の世界 —死後の処置—

いのちの羅針盤

—死者への想い—



- | | |
|--------------------------|----|
| 1. 「おくりびと」の世界 | 3 |
| 2. 「このたびはご愁傷さまです」—葬儀での挨拶 | 6 |
| 3. 悲しみに寄り添って—供養の再発見 | 10 |

病院での遺体のケア

戦後になり、病院で亡くなるケースが多くなり、死後の処置は病院の看護師、看護助手の仕事になります。

看護師、看護助手の仕事になります。看護師、看護助手の仕事になります。

病院で行う死後の処置を「湯灌」とか「清拭」とも言い、最近では「エンゼルケア」とも呼ばれます。

まずアルコールで身体全体を拭き、口内のものを出させ、体液が漏出しないように口、尻等のあらゆる穴に脱脂綿を詰め、傷口等はガーゼをあて包帯で巻き、新しい浴衣に着替えさせ、男性は髭をそり、女性には顔に軽い化粧を施し、髪の毛を整えます。

死後の処置が地域や家族の手から看護師、葬儀社の専門家の手に委ねられるようになってきましたので

現代の「湯灌」「納棺」

90年以降のことですが、葬儀社が提供する「湯灌」サービスが登場しました。昔の湯灌とは違って、業者が行うものです。在宅の高齢者への作業に遺族が参加して化粧等を遺族の手で行うケースもあります。

病院死では看護師等が死後の処置をしますが、自宅死の場合には訪問看護師あるいは葬儀社の従業員が行います。

死後の処置が地域や家族の手から看護師、葬儀社の専門家の手に委ねられるようになってきましたので

て行い、その後は先の病院での死後の処置同様に行います。

「長いこと入院している間は、好きだつたお風呂に入れることもできなかつた」ということから湯灌を希望する遺族が多いようです。

これと併行して、あるいは事前に入浴サービスを提供していた業者が遺体の入浴サービスに目をつけたのです。

浴槽を持ち込み、自宅等で行うのですが、「湯灌の儀」などというセレモニーに仕上げ、洗浄部分を浴槽に

映画「おくりびと」の企画に際し、主演の本木さんが大きく影響を受けた本が青木新門『納棺夫日記』(文春文庫)です。

青木さんは詩人・作家を志していて、60年安保を契機に早稲田大学政経学部を中退、故郷富山に戻り、呑み屋を開業。しかし、地元の作家や画家志望等の金のない連中のたまり場と化し、結局閉店に追い込まれました。生まれたばかりの子どもたちのミルク代にも欠くという生活となり、怒った夫人が投げつけた新聞

に創業間もない冠婚葬祭会社の募集があつたことから応募、葬儀の道に進んだという人です。

当時は地元の人々が悲戦苦闘して納棺をしていた時代。あまりの酷いありさまに納棺の手伝いをしたら、「いい納棺夫がいる」と評判になり、いつの間にか納棺専門に仕事をするようになりましたとのことです。

他方、札幌では、おそらく二宅さんという方だったと思いますが、きれいに納棺をするというので評判になり、納棺協会を設立、葬儀社か

死者の尊厳を守る

「死後の処置」と言われる湯灌、納棺、いまは専門家に委ねられる時代になりましたが、これらは一見死顔が穏やかになるのですが、腐敗や硬直の進行を止めることはできません。ですから冷蔵庫に入れたり、ドライアイスをあてて腐敗の進行を遅らせるようになりますが、限度があります。

葬儀を急ぐ背景には、遺体の腐敗の依頼を受けて納棺師を手配するようになつたようです。これが全国展開し、今回の本木さんの演技もこの納棺協会の方が指導しました。

ですから映画「おくりびと」の納棺師は、心は青木新門さん、技術は納棺協会の手で完成されたものであります。

が進行し、死者の尊厳が失われるのを怖れる心理があります。

北米で8割の遺体に施されているのがエンバーミングです。血液と防腐液を交換することにより腐敗の進行を止める処置です。これをすると慌てて葬儀をしなくてもよくなります。しかし、日本ではまだ年間1万6千体強ですから、それほど普及していません。

死に向き合ひ、いのちに向かう

遺体というのは死者そのものです。これをどう扱うかで死者に対する態度が変わってくるのです。その死者は他人ではなく、まさに家族、友人であつたし、現に家族、友人なわけです。

「おくりびと」は、死から目を逸らすのではなく、向き合うべきものと



遺体というのは死者そのものです。これをどう扱うかで死者に対する態度が変わってくるのです。その死者は他人ではなく、まさに家族、友人であつたし、現に家族、友人なわけです。

して感じさせる、まさしく人間ドラマであり、死は疎まれるべきものでないことを描くことにより、多くの人の心の琴線に触れ、感動を呼んだのではないか。



「このたびはご愁傷さまです」—葬儀での挨拶

自然に相対する

葬儀での挨拶の言葉に悩んだ経験のある人は少なくないでしょう。「このたびはどうも…」

と言つて頭を下げ、後はムニヤムニヤで終わらせる例が少なくあります。

マナーブックなどでは、「わざわざ遺族席まで行ってお悔やみを言わなくともいい」と、お悔やみは受付で葬儀係の人に

「お悔やみは受付で葬儀係の人に」といった疑問に思われるような記

述がしばしばされています。
では、どうすればいいのでしょうか？

正解はありません。

弔問する人が故人あるいは遺族と人間関係がどうであつたかによつて大きく変わるので。

これは、よく考えれば当然のことです。

冠婚葬祭という儀礼の前に、現実に人が死に、それを悲しむ人がいる、というのが葬式の現場なのです。

故人とも遺族とも面識がない人が、遺族席につかつか歩いてきて大仰な挨拶をするというのはどうも変です。

故人や遺族と深い人間関係にあつた人であれば、自然と遺族席に足が向き、お悔やみの言葉をかけるでしょう。

お悔やみを言うのは、何か変です。

また、受付を故人の勤め先か住んでる地域の人が手伝っているならば、一言声をかけることもあるでしょうが、あまり関係のない人がかりだされて受付を担当している場合、その人にお悔やみを言うのは、何か変です。

挨拶するとき、遠慮するとき

挨拶すべき人には挨拶し、関係があまり深くない人は遠慮して挨拶を控えてもいいでしょう。

「遠慮して」というのは、遺族には家族を喪つたゆえの喪失感、悲嘆、心労があるのですから、負担を減らすといふ配慮がいるということです。

しかし、挨拶によって遺族が力づけられることがあります。

例えば、故人が昔教師をしていた場合、遺族とは面識のない教え子が「〇〇小学校で教えていただき、大変お世話になりました」と言つて近寄ってくれるのはうれしいものです。

ここに故人を大切な存在と思つてくれた人がいる、という事実に感激するのです。



故人とは親しかつたが、遺族とは面識がない、というケースもあります。そういう場合、自分のことを名乗る、それは大切なことであると思いまり、故人とどんな関係であつたかを述べ、お悔やみを言つてはどうでしょうか。

ある僧侶の方がこう言つていまし
た。
「僧侶は遺族の前に行つて目を見て
『このたびはご愁傷さまです』とは
つきり言えるようになつたら一人
前」
これは深い言葉です。葬儀をする
僧侶が、遺族の悲しみを受け入れ

故人とは親しかつたが、遺族とは面識がない、というケースもあります。そういう場合、自分のことを名乗る、それは大切なことであると思いまり、故人とどんな関係であつたかを述べ、お悔やみを言つてはどうでしょうか。

ある僧侶の方がこう言つていまし
た。
「僧侶は遺族の前に行つて目を見て
『このたびはご愁傷さまです』とは
つきり言えるようになつたら一人
前」
これは深い言葉です。葬儀をする
僧侶が、遺族の悲しみを受け入れ

故人が自分にとつてかけがえのない人、大切な人であつたことを伝える、それは大切なことであると思いま
ます。
また、関係によつては、あえて名乗らないケースもあります。

「ご愁傷さま」と言えるか？

ある僧侶の方がこう言つていまし
た。
「僧侶は遺族の前に行つて目を見て
『このたびはご愁傷さまです』とは
つきり言えるようになつたら一人
前」
これは深い言葉です。葬儀をする
僧侶が、遺族の悲しみを受け入れ

る、心から思いやる、という姿勢でなければ葬儀の導師など務められないでしよう。
何も僧侶に限つたことではありません。心からこの言葉を言える関係なのか、その想いがあるのかが問われるのであろうと思います。

善意が傷つけることも

しかし葬儀では、善意から言つた
つもりの言葉が遺族の心を傷つける
ことがあります。
言つた人は善意からのつもりです
が、遺族は「他人事と思っている」と
がんばつて！」
があります。

遺族は「もうこれ以上何をがんば
ればいいのだろう」「私の気持ちを
理解していない」とその人を不信に
思ひがちです。
子どもを亡くした人に、「
まだ若いのだから、今度は元気な
子が授かるから」と励ましたつもりが、遺族には
のではありません。

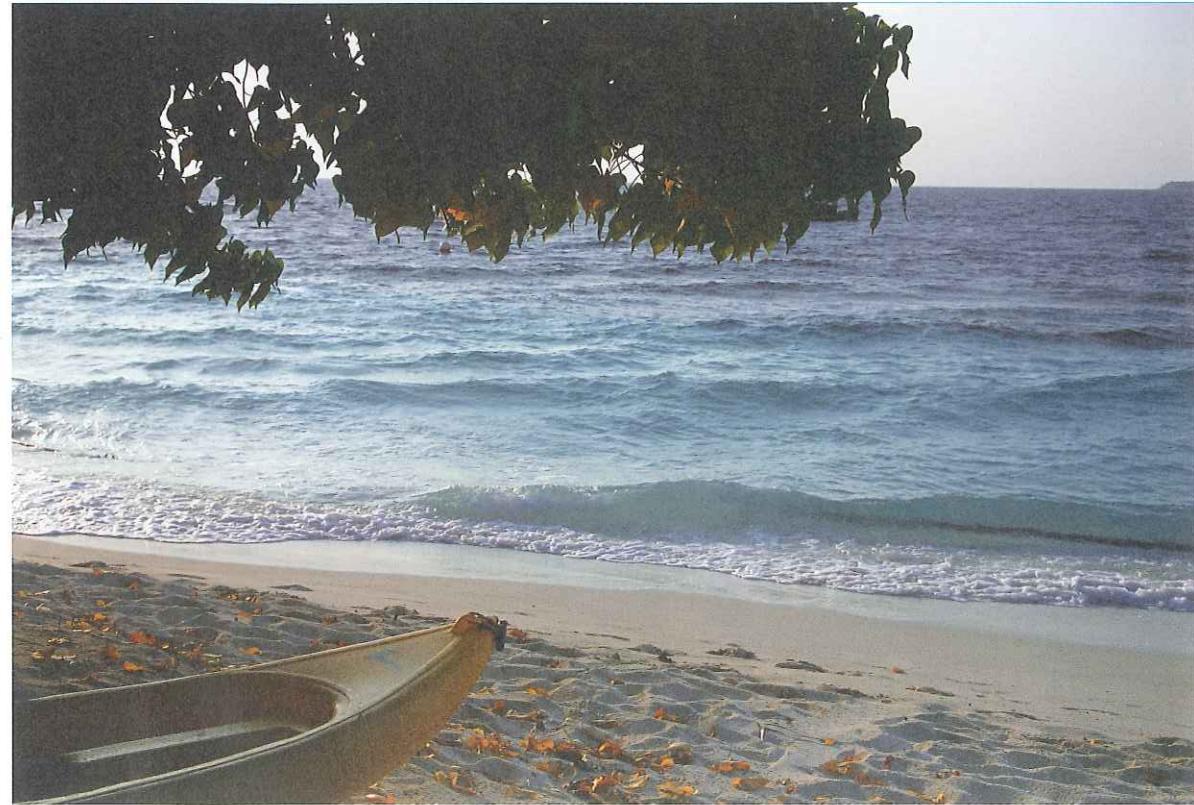
もちろん、これはケースバイケー
スです。マニュアルのようにまた
「禁句集」のようなものにすべきも
のではありません。
一つ言えるとしたら、
「遺族に対してアドバイスする必
要はない」

アドバイスより聴くということ

詮索することではないことは言うま
でもないでしょう。

いうよりも心を開いて「聴く」と
いうこと、遺族の想いに心を寄せる
ことが大切だと思うのです。これは

理解してしまいがちな言葉です。
例えば、
「泣かないで、笑つて」
と力づけようとする人。
無理に悲しみを抑えようとする



悲しみに寄り添つて—供養の再発見—

葬式後にくるダメージ

亡くなつた家族への想い、というのは特別なものがあります。死別した直後というのは、突然とていてあまり実感がないままにお葬式を終えてしまうこともあります。お葬式の間は緊張していて、例え

ば火葬が終わつた時には一時的に明るい雰囲気にもなつたりするのですが、自宅に戻り数日経つと、深い疲労感に覆われるようを感じたり、気分が落ち込んだりすることがあります。食欲もなくなり、中には不眠で苦しむ人もいます。

探索や怒りも

今まで一緒に生活していた家族が亡くなつたということに実感がわかれ、「そろそろご飯にしなくては」と考えて、「あー、あの人はいないんだ」と喪失感を深くすることもあります。

また、亡くなつた人に向かって「何で死んだのよ」と怒りを覚えたり、ちょっととしたことで、きょうだい関係が氣まずくなることもあります。こうしたことは近親者や親しい

友人と死別したときにはよく起ころ感情で、自然なことです。これを「グリーフ(死別の悲嘆)」と言います。

家族の死、身近な人の死というのは、それだけ目には見えないダメージを心に与えます。亡くなつた人は、生前に感情的に深い関係をもつていた場合にはもちろん、いがみ合つていたり、憎しみ関係にあつた場合でも起つてゐるのです。

悲しみにある人への言葉遣い

グリーフの感情に陥つてゐる遺族に対して、よく、「そんなにいつまでもメソメソしないで早く元気になつて」「亡くなつた人のことは忘れて、前向きに生きてね」「元気だしてね」

と善意でもつてアドバイスする人がいますが、これは逆効果になることが多いです。そう言われた人は「この人は私の気持ちをわかつてくれていないんだ」と感じ、心を閉ざし、中には閉じこもつてしまふ人もいます。

仏壇が見直されている

そういう悲しみの中にある人にとって、日本では仏壇が大きな働きをしてきたことが最近の研究で明らかになつてきました。

仏壇の前に座ることによって死者

に対しても直接話しかけることができるのです。自分の悲しみを隠さず、たまには恨み言さえ言って語りかけることができるからです。

死者に対する供養することは、同時に遺された人に対しても大きな働きをしてきました。

グリーフは克服するものではありません。言うならば、悲しむだけ悲しむことが大事なのです。

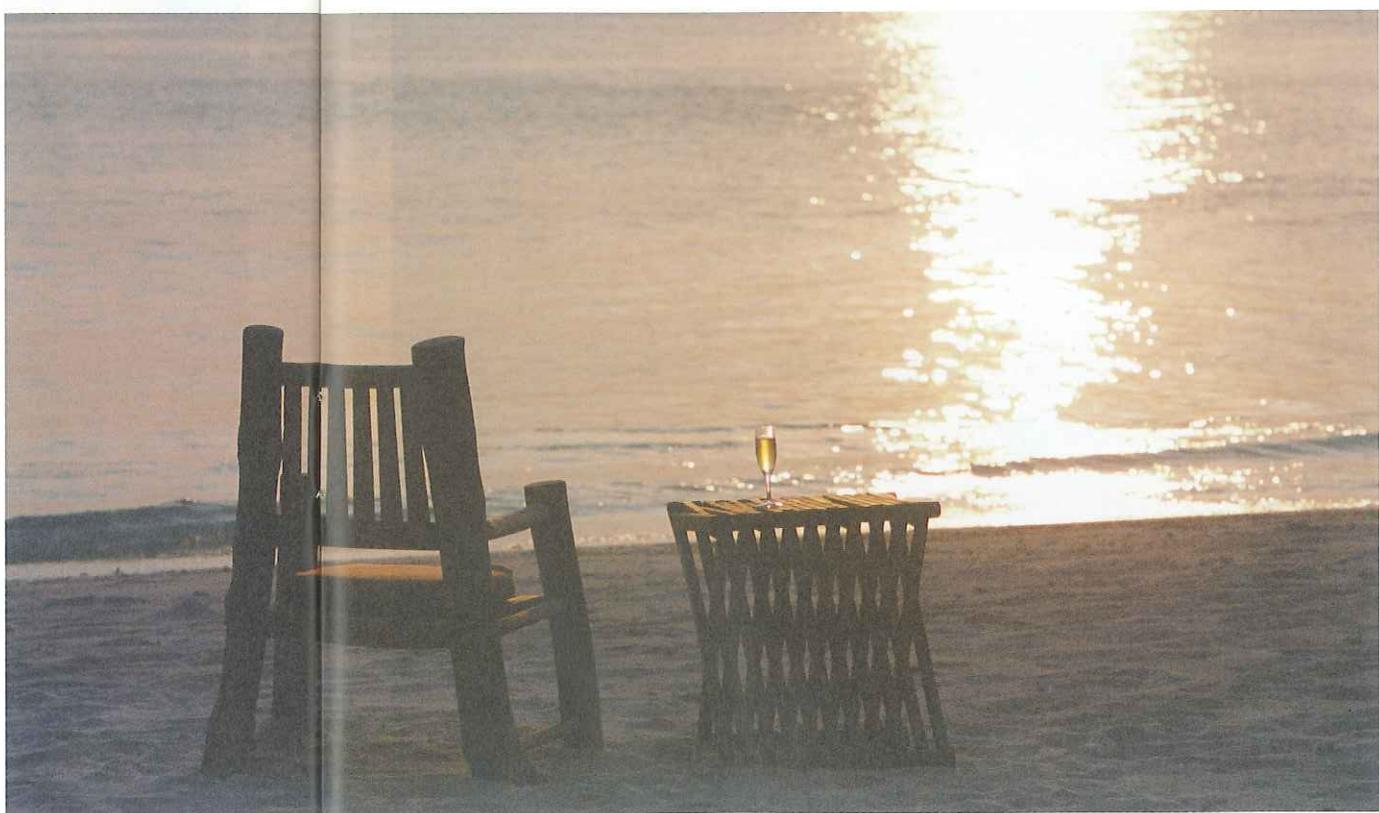
死者は忘れるのがいいのではなく、思い出という形で、大切な人として心に位置づけることが大事なのです。

仏壇にも最近はいろいろなもの

悲しみに寄り添う

四十九日や百か日、一周忌、三回忌、七回忌…と弔つていくことにより、いつの日か悲しみの感情が穏やかになり、死者と暮らした日々を大切に思い出と感じることができます。

周囲の人も遺族の気持ちに寄り添い、その悲しみを理解し、共感してあげたいものです。



お葬式Q&A

法事はどうする？

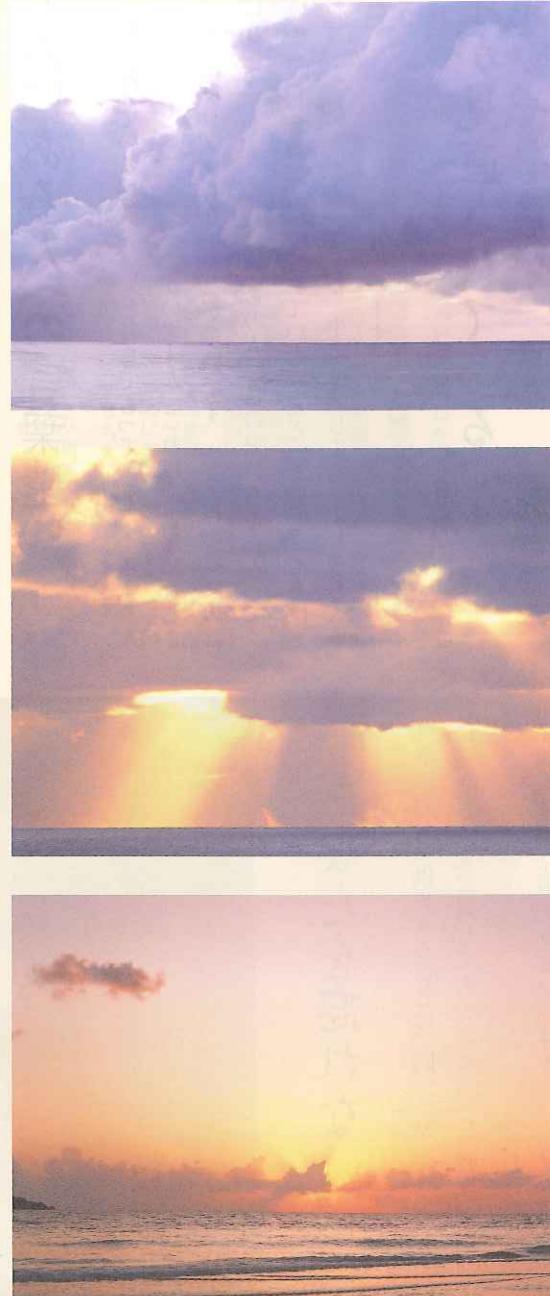
Q 葬式での宗教者へのお礼は？

Q 葬儀の後での香典は？

17

15

13



法事はどうする？

Q

今度祖母の七回忌を迎えます。そもそも法事はどうやるものですか？

前の三回忌までは父が取り仕切りっていたのでよくわかりません。服装もどうしたらいいのでしょうか？

(40歳女性)

A

七回忌というとお祖母さまが亡くなつて6年目ですね。かつては法事が大切にされていましたが、友人の僧侶に聞くと「三回忌まではするが、七回忌以降をする家族がめつきり減少した」と嘆いていました。時代の動きが激しいのでいつまでも死者には係わっていられないという感じなのでしょうか。

亡くなつた家族を長く想っているということを日本人は大切にしてきました。そのことはいまも変わつていないのでしょうか。

「千の風になつて」という歌が流行するということは、身近な死者のことを想い続けている人が多いという事実を示しているように思います。しかし、それが以前は仏壇に毎日手を合わせることであつたり、お墓参りすることであつたり、法事を大切にすることであったのが、形が変わつてきているだけのような感じがします。

私事ですが、若い頃友人が亡くなり、命日には同僚の者が遺族と関係します。

四十九日の後は百か日、一周忌、三回忌（2年目の命日）、七回忌（6年目の命日）、十三回忌（12年目の命日）、三十三回忌（32年目の命日）となります。3と7にちなんだ十七回

葬式での宗教者へのお礼は？

Q

葬式費用としてどのくらい準備しておいたら
よいか、考えています。特にお寺へのお礼
の金額がわかりません。



(75歳男性)

葬式費用としてどのくらい準備しておいたら
よいか、考えています。特にお寺へのお礼
の金額がわかりません。

法事は一般には次のように行われます。
まず僧侶による法要をします。これが肝要なことです。法事＝会食と思いつがちですが、法要が中心です。その後、会食をします。まず喪主が挨拶し、僧侶に献杯(けんぱい)の音頭をとつてもらい、会食に入り、最後にまた喪主が挨拶し、帰りには引

七回忌(6年目の命日)ともなると通常は悲しみよりも思い出の感情が強くなります。しかし、子どもを亡くした場合は七回忌といえども悲しみが癒えないことがあります。

法事は一般には次のように行われます。
まず僧侶による法要をします。これが肝要なことです。法事＝会食と思いつがちですが、法要が中心です。その後、会食をします。まず喪主が挨拶し、僧侶に献杯(けんぱい)の音頭をとつてもらい、会食に入り、最後にまた喪主が挨拶し、帰りには引

念日などにも起こりがちです。
七回忌(6年目の命日)ともなると通常は悲しみよりも思い出の感情が強くなります。しかし、子どもを亡くした場合は七回忌といえども悲しみが癒えないことがあります。

三回忌まではまだ悲しみが強い

時期です。また、命日ということでお辛い思いがぶり返しがちです。遺族のこうした悲嘆のぶり返しを記念日症候群といい、命日のほか、故人の誕生日、結婚記念日、旅行した記念日などにも起こりがちです。

七回忌(6年目の命日)ともなると通常は悲しみよりも思い出の感情が強くなります。しかし、子どもを亡くした場合は七回忌といえども悲しみが癒えないことがあります。

き物を渡すこともあります。

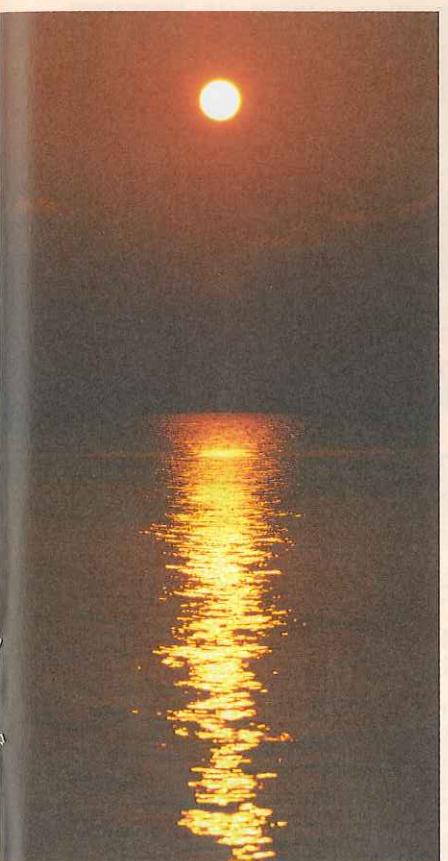
法事の際の服装ですが、遺族は三回忌までは黒を着用しますが、七回忌以降は黒を着用しません。黒は喪に服していることを表しているので、喪に服するのは一周忌(場合に

より二回忌)までだからです。その後は黒以外の服装でかまいません。

法事に招かれた人は四十九日を含め、黒を着用する必要はありません。きちんとした服装であればかもしれません。むしろ黒の「喪服」はおかしいかなと思います。

七回忌を親戚や関係者を招いて行うのであれば、案内はできれば1カ月前、遅くとも2週間前に発送し、出欠の返事をもらいます。

キリスト教や無宗教では法事にあたるものは定まっていませんが、死者を追悼、追憶することは大切にしたいものです。



「過去のことは早く忘れるほうが多い」と言う人もいますが、そうは思いません。死者を覚えていることは現在の自分の生き方を問う意味でも大切なことです。法事はその大切な機会を提供してくれているようにも思われます。

最近は七回忌以降の法事は家族だけで行う家族も増えています。家族揃ってお寺へ行き、住職にお経を上げていただき、その後、家族で故人を偲んで食事会というのもいいでしょう。

だけで行う家族も増えています。家族揃ってお寺へ行き、住職にお経を上げていただき、その後、家族で故人を偲んで食事会というのもいいでしょう。

お葬式の費用といつてもどんなお葬式にかかるで変わってきます。

お葬式の費用は大きくは次のように分けることができます。

- ①葬儀社の費用
- ②飲食接待の費用
- ③宗教者への謝礼
- ④その他の費用

お葬式の費用は全て葬儀社に支払われるものではありません。

②の飲食接待費用は、地域の人

料理を作ったり、直接料理店等に注文する場合がありますが、最近では葬儀社経由で注文し、葬儀社に支払うケースが多いようです。しかし、これは葬儀社経由でないとできないものではありません。

③の宗教者への謝礼は、葬儀社に支払う筋のものではありません。僧侶、牧師、神職などの宗教者へのお礼ですから、遺族から直接お渡しすべきものです(これについては後段で詳しく説明します)。

④その他の費用は、①～③以外にお葬式に伴つて遺族に必要となるお

宗教者を依頼する場合には、遺族あるいは故人と寺・教会・神社との関係によって変わります。

ある方は亡くなる前に「檀那寺に1千万円お礼するように」と言い残しました。これは高い、安いという問題ではなく、その人の信仰の問題、つまり心の問題なのです。

葬儀の後での香典は？

Q

親友と電話で話したら、お母様が亡くなり、お葬式もご家族だけでなさったことを聞きました。私も若い頃お世話になったので香典でもと思うのですが、どうしたらいでしよう？

(40歳男性)



葬式での宗教者へのお礼は？

また、ある遺族は僧侶に相談したら「お気持ちで結構です」と言われたので、枕経、通夜、葬儀、火葬とお礼しませんでした。この話を聞いたとき、この遺族には感謝の気持ちがないと呆れたものです。

「でも、相場というのがあるのでは？」と聞かれます。

キリスト教会や神社では規定を定めているところがありますが、概ね10～20万円程度が多いようです。もつとも、もっと多くお礼してもかまいません。キリスト教では牧師や神父へのお礼以外にオルガニストや教会堂使用のお礼がありますし、神道では斎主を務める神職以外の、音楽を奏でる方などへのお礼も発生します。

仏教では、宗派の違いよりも地方や寺格による違いが多いようです。また、僧侶を何人招くかで違つてきます。例えば導師以外に3人お願いする場合、導師以外にはお1人3～5万円お礼するケースが多いようで、計9～15万円となります。

では肝心の導師をお務めいただ

きます。斎主を務める神職以外の、音楽を

奏でる方などへのお礼も発生します。

仏教では、宗派の違いよりも地方や寺格による違いが多いようです。

また、僧侶を何人招くかで違つてきます。例えば導師以外に3人お願いする場合、導師以外にはお1人3～5万円お礼するケースが多いよう

で、計9～15万円となります。

では肝心の導師をお務めいただ

りを断る方もいるからです。

僧侶への謝礼は一見高額に見えますが、本来、導師をお願いするのは檀那寺（お手次寺）の住職です。檀家であるとは、お寺をそれぞれの事情に合わせて護持する責任もあるのです。「葬式の日当としては高い！」と思われるかも知れませんが、葬式や法事の際のお布施は、当日のお礼プラスお寺の護持費用と考えるとよいでしょう（キリスト教会員は年収の5～10%くらいの額を毎年、月分割で献金して負担しています）。

經濟的に困っているならば率直に住職と相談すればいいでしょう。

よく「お経料」「お戒名（法名）料」という言い方がされますが、間違います。僧侶へのお礼は「料金」ではありません。合わせて「お布施」です。檀那寺以外の僧侶を紹介され「院号付きで40万円、安いでしょう」といいます。そこで「多い」と言つたのは僧侶によつては院号を授与したからといって、その分のお礼の受け取

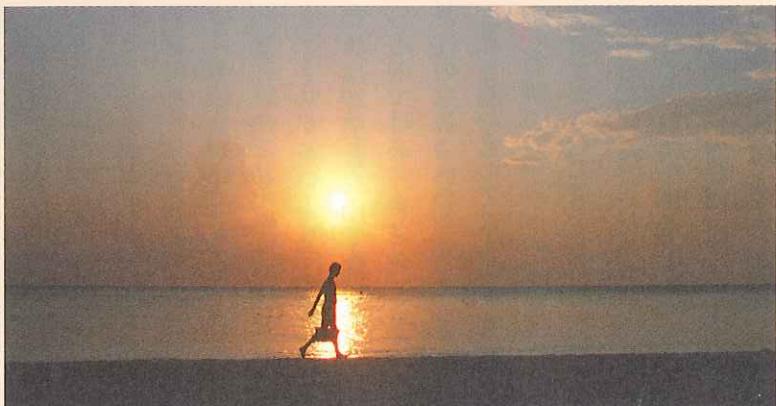
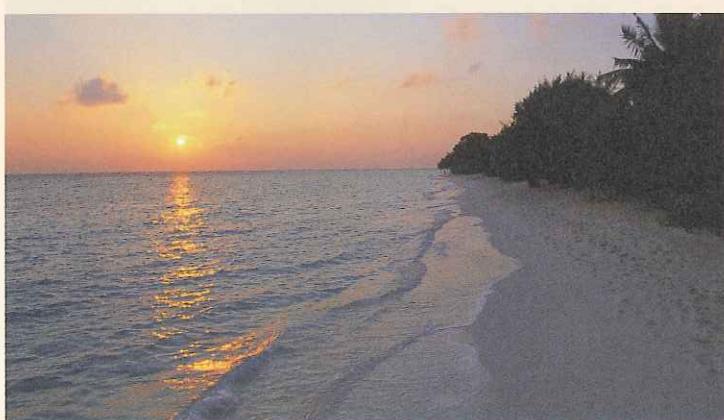
ります。信頼できる宗教者選びは大切です。できれば事前に選んでおきましょう。

近年は家族葬の形態が増えてきたために、親しくしていた人の死も、後から、お葬式も何もかも済んでから耳にすることが多くなりました。親しくしていた場合、それを聞いて何もしないというのは気持ちが落ち着かないものです。

その場合、香典か、お花でも贈りたいと考えることは自然なことです。予め聞かされており、「弔問、香典、供花を辞退します」と言われていたなら別ですが、まったく知られていないかつたのですから、聞いた人がその人の気持ちで行動してよいのです。

香典、供花にはいつまで贈るものという期限がありません。たとえお葬式が済んでいようと、一周忌が済んでいようと贈つていいのです。

我が家が近いならお友達の家を訪れ、お線香をあげさせていただき、香典を持参するという方法もあります。しかし、家も遠い、家族の状況もわからないときには香典を郵送す



づけられる思いがするものです。故人を覚えていてくれる人がいるというのはうれしいものです。

遺族としては、いただいた香典や

供花に対しては、四十九日や一周忌あるいは三回忌を期して（基本的にいつでもいいのですが）お礼の手紙を送り、場合によつては礼品を添えます。

人が亡くなるということは、その家族だけの問題ではなく、故人と親しくしていた人の問題でもあるのです。

弔い、悔やみというのは決まつた儀礼というよりは、それぞれの人間としての感情を中心に考えられていいことであろうと思います。

「葬式の案内がこなかつた」と怒るのではなく、その死を耳にした時点で、その人のできる弔いをしたらいいと思います。

香典や供花については期限がないというのは、そうした人間的感情の交流の自由を保証しているものだと理解できるのではないでしょうか。

葬儀の後での香典は？



風の音

あの日、私が中学1年の秋のことであった。

学校から友人のS子と一緒に歩いて帰った。風が強く後ろから吹いてきて、風に背中を押されるようにして二人は歩いていた。

話題は、近く行われる全校の英語のテストのことだったように記憶しているが。

まだ中1なので、学校では英語はほんの初歩を習っている最中だったが、私たち二人は小学校4年から、イギリス系の二世のおばさんと英語を教わっていたので、学校の授業には正直退屈していた。

発音もそのイギリスおばさん仕込みであつたから、学校の先生よりもきれいだ、上手だ、と同級生から讃められ、内心得意だった。だが中にはやつかむ子もいた。その日S子と別れ、家に入ると誰もいない。もつとも誰もいないのには慣れていた。

両親と子どもは私一人。父は公務員で市の外れの支所に勤めていたから、家に帰り着くのは夕方7時をまわるのが常であつたし、母は週に3日、弁護士事務所でパートタイマーをしていた。

その日の様子が違つたのは、母が出勤日ではなく、また玄関の戸が大きく開けられたままであつたからだ。「お母さん、おかーさん」と呼ぶが、家の中からは物音一つしない。ただ風がうなり声を立てていたから、何か変な気持ちがした、ということはよく覚えている。

「圭ちゃん、帰つてたの？」

隣家の和子おばさんだ。大きな胸を上下させて慌てて

言つた。

「すぐ大和田病院へ行きなさい。お母さんが……」

自転車を出して病院へ向かつた。「何でもありませんよ

うに」と必死に祈りながら。

母はベッドに静かに横たわつていた。まるで眠るように。側にいた母と同年輩の看護師さんが、「路上で倒れて、近所の方が救急車を呼んでくれて運ばれたけど」「めんなさい。お母さんのいのち助けられなくて」と謝つた。眠るように、しかし息をしないから、母の姿は時間が停止したように止まつていた。

私も止まつていた。ただ頭の中は、風が轟音を立て吹き荒れている。私は耐えた。

目の前の光景が暗くなり、何も見えなくなつた。何も考えられなかつた。

気がついた時、私は看護師さんに抱えられ、椅子に座らされていた。

それからることはよく覚えていない。青い顔をして息を切らせた父が来て、母を自宅に運び、母を寝かせ、そして親戚の人やら近所の人人が来て、泣き喫ぐ人がいて、葬儀が慌しく行われたのだが、私はその後の数日間、何か不思議な夢を見ているようだつた。

母の同級生が「時間が経たないと、わからないよね」と言つてたが、7年経つたいまも、あの日のことを考えると、頭の中には風が轟音を立て、一切の思考、感情を奪うのだ。





if共済会の会員特典を活用していますか?

上手に会員特典を使いこなそう

if共済会の会員には大きく4つの特典があります。
上手に会員特典を使いこなしてください。利用すれば利用するだけ役に立つ特典です。

4 保険プランを利用して葬儀費用を事前に準備できる

CHECK 1 遺された家族が葬儀費用のことでの心配する必要がなくなります。

CHECK 2 一生涯保障ですので、いつでもなることがあっても保障がなかつたということはありません。

CHECK 3 予め考えた葬儀の仕様書に基づき、事前のお見積もりを無料でいたします。

CHECK 4 仕様書作りにはif共済会加盟店がお手伝いします。葬儀やそれにまつわることに知識不足があるても、安心して納得いただける仕様書作りができます。また、これを通じて葬儀の手順等が把握できますので、もしものときに安心して取り組むことができます。

サービスの基本

3 葬儀の内容を指定し、見積もりを得ておく生前予約制度が利用できる

CHECK 1 ご本人が自由に葬儀のデザインをすることができます。その仕様書を家族に示すことにより、具体的に自分の意思を家族に伝えておくことができます。

CHECK 2 ご本人だけでなく、家族の葬儀についても予め決めておくことができます。いざというときに精神的に動搖していく冷静な判断力を欠くことになつても、慌てることも、準備不足もなく、しっかりとした葬儀を執り行うことができます。

CHECK 3 会員ご本人が、登録済の2親等以内の方が亡くなった場合に、全国どこでもif共済会加盟店に葬儀を発注したときには基本葬儀料の10%を弔慰金として給付を受けることができます。

CHECK 4 if共済会の会員には大きく4つの特典があります。上手に会員特典を使いこなしてください。利用すれば利用するだけ役に立つ特典です。

1 登録した2親等までが弔慰金サービスを利用できる

CHECK 1 2親等以内の親族の葬儀で利用できます。会員ご本人・配偶者はもちろん、同居の有無に関係なく、ご本人と配偶者にとっての両親、祖父母、兄弟姉妹、子供、孫の方の葬儀において利用できます。

CHECK 2 if共済会の加盟店は全国にありますから、もしものときには、その地の加盟店に申し込んだ場合には弔慰金を受け取ることができます。会員証を提示するか、会員番号を示してください。

他の地域で2親等以内の親族の方が亡くなった場合、入会取扱店にご相談いただければ、その地の優良加盟店をご紹介します。

2 葬儀や死後の手続き等さまざまな不安や疑問にお答えする相談サービスをいつでも利用できる

CHECK 1 国民健康保険の葬祭料はどういう時にしたら受け取ることができるか、安心な遺言の作り方は、相続税の相談につてくれる税理士さんはどこに、など心配になつていることはありますか。ご相談いただければ加盟店では適切なアドバイスを提供します。

CHECK 2 専門家のアドバイスが必要なときにはご紹介します。有料相談もありますが、事前に有料かどうかを提示しますので、安心してご相談ください。



サービスの基本

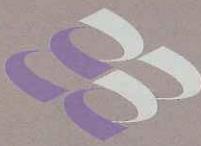
3 葬儀の内容を指定し、見積もりを得ておく生前予約制度が利用できる

CHECK 1 ご本人が自由に葬儀のデザインをすることができます。その仕様書を家族に示すことにより、具体的に自分の意思を家族に伝えておくことができます。

CHECK 2 会員ご本人が、登録済の2親等以内の方が亡くなった場合に、全国どこでもif共済会加盟店に葬儀を発注したときには基本葬儀料の10%を弔慰金として給付を受けることができます。

CHECK 3 会員ご本人が、登録済の2親等以内の方が亡くなつた場合に、全国どこでもif共済会加盟店に葬儀を発注したときには基本葬儀料の10%を弔慰金として給付を受けることができます。

CHECK 4 if共済会の会員には大きく4つの特典があります。上手に会員特典を使いこなしてください。利用すれば利用するだけ役に立つ特典です。



経済産業大臣認可

全葬連

if共済会会報

NO.10